

図書館の

東京大学附属図書館報
Vol.43 No.5 2004.10

5

PDF版：<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/kanpo/>
附属図書館ホームページ：<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>

目 次	
辞典類での項目の書き方について(ぶっくぼすと 12)	社会科学研究所教授 平石 直昭 89
netLibrary eBook サービスのご紹介	柏図書館 92
柏図書館だより	柏図書館 95
総合図書館マナーアップキャンペーン	総合図書館 96
附属図書館秋の特別展示会 土肥慶蔵の医学関係資料とその時代 - 鶯軒文庫を中心として	附属図書館展示委員会 97
「第一高等学校創立一三〇年記念・駒場の歴史展」について	駒場図書館 98
秋季データベース講習会のお知らせ	情報基盤センター-学術情報リテラシー係 99
11月～12月のデータベース定期講習会のお知らせ	情報基盤センター-学術情報リテラシー係 100

ぶっくぼすと No.12

辞典類での項目の書き方について

社会科学研究所教授 平石 直昭

10年ほど前になるが、ある友人から頼まれて、山川出版社の『日本史広辞典』(1997年刊)のいくつかの項目について、執筆を引きうけたことがある。徳川時代の儒者として知られる伊藤仁斎や荻生徂徠とその門流、および彼らの主な著作類を中心として、全部で20項目ほどになったと思う。

この種の辞典類の項目を執筆した経験はその前後にも何回かあるが、いつでもかなり骨が折れるというのが実感である。まず辞典という書物の性格上、各項目に与えられた字数は非常にかぎられている。そこで各項目について何を書き何を書かないかの取舍選択に、かなり時間を割かれることになる。枚数が少ないにもかかわらず、ではなく、少ないからこそ、時間がとられるのである。二義的な事柄は省いて、もっとも

基礎的で重要な事柄、あるいは基本的な論点を選んで書かねばならない。その判別にはおのずから、書き手の史観や当該項目を歴史に位置づけるさいの見方が作用するであろう。そしてどれだけ豊かな意味連関のなかでその項目を捉えられるかという点では、書き手のセンスも問われることになる。別の面では、自説を自由に開陳してよい論文とは違って、辞典ではなるべく客観的な知識や情報を伝えるという配慮も必要である。それもまた、取りあげるべき事項の取舍選択に神経を使わせる一因となる。

また項目の執筆に際しては、近年の学界で発表されてきた新しい見方や見解も紹介する必要がある。同種の辞典がある年月をおいて刊行されるには、その期間における学問の進歩を摂取し反映するという意味も

あるはずだからである。この要求に応えるために書き手は、周囲の研究動向に注意をはらい、そこで得られた知識を項目執筆に生かすように努めなければならない。しかし現在の学界では専門分化が進んでいるから、この作業を続けることは必ずしも容易ではない。

加えて文章を簡潔に書くことも必要である。無駄を省いた文章を書くことで、そこで生じた字数の余裕を事項のより充実した説明にまわせるからである。しかしこの種の文章の推敲に時間がかかることは、経験者ならずとも容易に想像できよう。こうした種々の理由が重なって辞典類の項目の執筆は、いつでも予想した以上に時間をとられることになる。

こうしたときに、既刊の辞典類で同じ項目がどう扱われているかを見ることはしばしば役にたつ。その項目を扱うさいの基本的な要件を学界がどう理解しているかについて、示唆が得られるからである。そこで上記の『辞典』の項目執筆にあたっては、先行する辞典類をあたってみた。そして大半の場合は納得がいったのだが、首をかしげた例も少数ながらあった。それについて以下では書いてみたい。

荻生徂徠といえは、元禄享保期に活躍し、先行する宋学や伊藤仁斎の学問を批判して独自の儒学を立てるとともに、国学者や蘭学者にも影響を与えて、その勃興を促した人である。この人の著述として伝わるものに「太平策」がある。天下太平の実現という「聖人の道」の本意、その道を学ぶ順序や方法、徳川治政の点検と、武士の城下町集中による弊害の多出という現状の分析、当世はまず安民と知人（人材抜擢）という二原則の確立が制度改革に先がけて必要であること、さらに礼楽制作の基礎作りとして万民の土着法（井田法）があることなど

を説いたものである。

しかしこの作品には偽作説もあり、学界でも決着がついていない。私が首を傾げたのは、こうした対立する見解がある場合にその項目の執筆は、どのような態度で書くことが望ましいかという問題に関わる。

私見では、書き手が一方の立場にコミットしている場合、純粹に第三者的な立場にたって両論を併記することは困難である。しかし他方で自分の見解だけを一方的に書くことは、それとは違った見方に読者の眼を塞いでしまう可能性がある点で好ましくないと思う。とくに辞典という書物の性格を考えれば、異なった見方があることについて多少でも紹介することが望ましいであろう。

こうした考えに立つと、『国史大辞典』第8巻（吉川弘文館、1987年初版）、および『広辞苑』第四版（岩波書店、1991年初刷）の「太平策」の項目は、違和感を覚えさせるものだった。というのはこの両方ともが、偽書説を主張するのみで、対立する真作説については全くふれていないからである。読者への情報提供という役割からいって、それは片手落ちではないだろうか。ちなみに前者は尾藤正英氏の執筆であり、「太平策」が偽書と判断される理由をテキストの内容分析から説明した上で、本書は「[太宰]春台またはその系統に属する学者により、...徂徠の『政談』などを材料として、偽作されたものと考えられる」とする。後者は無署名だが、「経世書。一卷。荻生徂徠の「政談」を材料に偽作されたものと考えられている」とあり、尾藤説と同じ立場である。

とくに後者には「偽作されたものと考えられている」とあり、あたかも一般に偽作説が受け入れられているかのようにも読める書き方になっている。ミスリーディングである。学界には真作説もある以上、その見方も記すことが辞典としては必要である

う。その意味では、『日本史大事典』第4巻(平凡社、1993年、辻達也執筆)が「荻生徂徠執筆と伝えられるが、今日に至るも異論があり確定せず、成立年代も明らかでない」と書いているのは穏当と思う。ただ念のため『広辞苑』のために弁じておけば、同書でも第五版(1998年初刷)になると、「荻生徂徠著。一卷。「政談」を材料に偽作されたとの説もある」と説明している。つまり偽作説の第四版に対して、第五版は真作説の立場に立ちながら偽作説にもふれているわけで、この書き方は首肯できるものである。

私はといえば上記の『日本史広辞典』(山川出版社、1997年)で、真作説をとりつつも「一七二一年(享保六)成立説など諸説があり、…偽作説もある」とした。自説とは違う見方も書いておくことが読者への義務と考えて、偽作説も紹介したわけである。

ところで私が真作説に立つにはそれなりの根拠がある。かつて『徂徠集』およびそれに関連する諸史料の分析を通して徂徠生涯の事績の復元を試みたさい、その思わぬ副産物として、「太平策」の執筆と將軍吉宗への献呈の背景事情についても、諸史料の比較検討によって、享保6年(1721)の8月から9月の交と推定できたということである(「徂徠年譜考」『千葉大学法経研究』11号、1982年初出、のち『荻生徂徠年譜考』平凡社、1984年の注25[229 - 239頁]として再録)。

この考証の妥当性については直接拙著に即して検討していただきたいが、一言注意しておきたいことがある。それは尾藤氏による偽作説の主張は「太平策」の内容分析に基づいているのに対して、私は徂徠の書簡や写本史料などの関連資料類を使って、「太平策」の執筆やその民間への漏洩に関わる人的つながりを考証し、それによって真作説を主張しているということである。つ

まり両者は、テキストの解釈とコンテキストの確定という方法の点で違っており、したがって主張の根拠も異なっている。そこで尾藤氏の側からみれば、私の考証をもってただちに氏の偽作説に対する決定的な批判として受け止める必要はないともいえるわけである。別言すれば、「太平策」のテキスト解釈によって偽作説が提出されている以上、それと同じ方法によって、「太平策」が徂徠の真作であることを証明する必要があるということである。

実はこの機会にそれを書くつもりで原稿も途中まで用意したのだが、テーマがあまりに専門的になり、かつ与えられた紙幅を大幅に超過してしまうことが分かったので、かわりにこの一文をまとめた次第である。「太平策」の内容分析による偽作説の批判的検討は、いずれ別の機会に立ち入って行うことにしたい。

(ひらいし なおあき)

netLibrary eBook サービスのご紹介

柏図書館

柏図書館にて、netLibrary eBook サービスがはじまりました。以下にサービスの概要をご紹介します。

URL:<http://www.netlibrary.org/>

東京大学構内（UTnet 内）からアクセスできます。

netLibrary eBook とは

eBook とは、書籍として出版された図書を電子化したもの = 電子ブックです。電子化された雑誌である“電子ジャーナル”と対になる概念と言えるでしょう。OCLC（Online Computer Library Center = アメリカを中心とした国際的な非営利ライブラリーサービス機関）の一部門である netLibrary が、さまざまな分野にわたる eBook コレクションを構築しオンラインで提供しています。

東京大学での eBook サービス

柏図書館での netLibrary eBook サービス導入にあたっては、自然科学や工学分野を中心とした496点の有料タイトルを購入しました。そのほか無料タイトル3,407点を加え、現在合計3,903タイトルが利用可能となっております（洋書のみ）。分野ごとのタイトル数は、柏図書館ニュースにてお知らせしております。

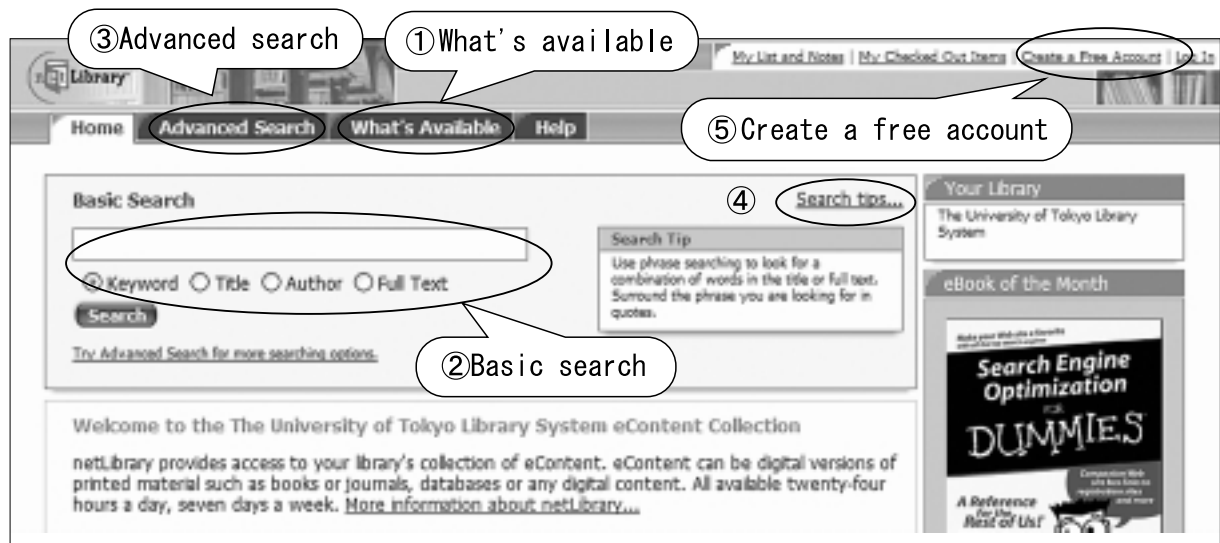
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/eBook.html>

なお、eBook は東京大学 OPAC（オンライン蔵書目録）には登録されておられません。OPAC では見つからなかった図書も、一度は eBook netLibrary サービスで検索してみてください。

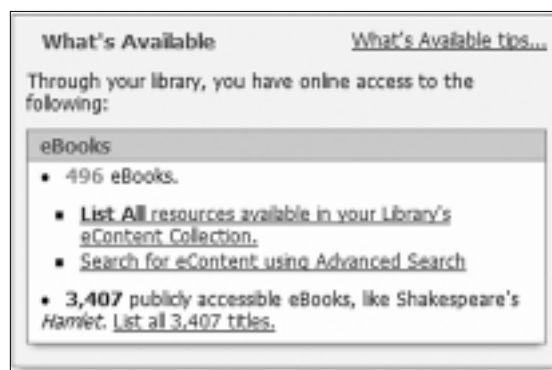
利用上の注意

本サービスは東京大学の構成員を対象としており、eBook のコンテンツを第三者に流通させることは媒体を問わず禁じられています。本サービスの利用は個人的な研究・学習を目的としたものに限り、なお、eBook を授業教材として印刷し配布することは、1冊につき1章以内の範囲で認められています。

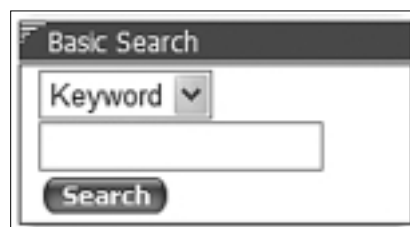
eBook サービス初期画面と検索機能



What's available : 利用可能な eBook の一覧を見ることができます。



Basic search : 検索語をボックスに入力し、キーワード、書名、著者名、テキストのいずれかを検索キーに指定します。下図のような検索ミニウインドウはどの画面でも常に表示されています。



Advanced search : 詳細検索です。

Search tips : 検索方法についての詳しい説明を見ることができます。

Create a free account : ユーザーアカウント登録はここから行います。

検索結果詳細表示と eBook の閲覧

検索結果詳細表示

View this eBook : eBook を閲覧します。有料タイトルは一度に1ユーザーのみが内容を閲覧できます。ただし、15分以上放置すると占有状態が解除されます。無料タイトルには同時アクセス数制限はありません。閲覧には Acrobat reader が必要な場合があります。

eBook 閲覧画面

Check out for 14 days : 14 日間の "貸出し" を受けられます。アカウント登録が必要です。

Add to my list : このタイトルをマイリストに登録できます。アカウント登録が必要です。

閲覧画面メニューには様々な機能があります。
 Search : 閲覧中の eBook を全文検索します。 Dictionary : 英英辞書機能
 Notes : 閲覧中のページにメモを書き込むことができます。 アカウント登録が必要です

アカウント登録と個人向けサービス

ユーザーアカウントを事前に登録しそのアカウントでログインすることによって、学外からのアクセスやさまざまな個人向けサービスの利用が可能になります。アカウント登録は東京大学構内から行ってください。東大構内から eBook の検索と閲覧のみを行う場合はアカウントは不要です。

<個人向けサービスの例>

- “貸出し” = check out 機能 : 14 日間、有料タイトルの “貸出し” を受けることができます。貸出し期間中は eBook の占有状態が解除されず、常に優先的に利用できます。
- マイリストの作成 : 個人の eBook リストを作成することができます。
- ノート機能 : 閲覧中の eBook のページにメモを残すことができます。

本サービスでは、各画面に "Tips" (ヘルプ) が用意されています。操作に不明な点がある場合はこちらもご参照ください。

柏図書館だより

柏図書館

柏図書館では5月の部分開館以来順次サービスを拡大してきました。柏図書館から最近の話題をお伝えします。



館外貸出サービスの開始

9月6日館外貸出サービスを開始しました。現在開架書架にある図書約6,000冊(参考図書を除く)が対象です。今後資料充実に努め、今年度末までには1万冊を越える予定です。

<貸出サービスの概要>

対象者：東京大学の教職員、学生、研究生、元教員

貸出資料：柏図書館開架図書
(参考書を除く)

貸出期間および冊数：2週間・10冊

~~~~~ 貸出手続き ~~~~~

図書館カウンターで図書館利用証をご用意の上手続きをしてください。また、カウンター前に設置してある自動貸出機を利用した貸出もできます。

貸出期間の更新(延長)も可能です。資料をカウンターまでお持ちになるか、メールでお知らせください。ただし、すでに予約の入っている場合や、返却期限を過ぎて

いる場合、また延滞罰則期間中は更新できません。

また、お探しの資料が貸出中だった場合、予約することができます。OPACの「貸出中」表示部分をクリックして予約してください。資料がカウンターに返却されると、メールまたは電話で連絡しますので、柏図書館カウンターまでお越しください。



自動貸出機

~~~~~ 返却手続き ~~~~~

開館時間中は2F図書館カウンターへ返却してください。閉館時は1Fメインエントランスに設置したブックポストに返却してください。

返却期限を過ぎて返却されますと、延滞日数分の罰則がつき貸出できなくなりますので、必ず期限内に返却をお願いします。

貸出サービスの詳しい内容については、柏図書館ホームページの「利用案内」でご案内しています。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/info/04.html>

また、柏キャンパス以外の方もキャンパスローンを通じて貸出可能となっています。詳しくは最寄の図書館室でお問い合わせください。

OPAC へのデータ入力

柏図書館所蔵資料約6,000件のOPACへのデータ入力が完了しました。これにより柏図書館の資料ほぼ全件がOPACで所蔵確認できるようになりました。

また、随時追加される資料は「新着図書案内」でもご案内しています。

自動化書庫工事開始

9月2日より、自動化書庫工事が始まりました。工事の様子は2階図書館入り口前の窓からご覧になることができます。工事中は作業の音が閲覧室内に響くこともありますが、ご了承ください。

この自動化書庫は12月末に50万冊収容分が完成予定です。その後自動化書庫へ医学図書館、総合図書館から移送する自然科学系雑誌のバックナンバー約11万冊を収容し、2月から稼働開始予定となっています。

また、2月以降も学内各図書館室から続々と資料が集まる予定となっています。



柏図書館ホームページURL

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/>

お問い合わせ先

E-mail:kashiwas@lib.u-tokyo.ac.jp

総合図書館マナーアップキャンペーン (2004.9 ~ 10)

東京大学総合図書館は、古典籍等の数々の貴重な資料を所蔵するだけでなく、歴史ある建物を有する図書館です。この総合図書館を快適にかつ大切に利用するために、利用者の方々に今一度基本的なマナーを周知するマナーアップキャンペーンを行いました。

今回のキャンペーンで特に呼びかけている事項は、以下の通りです。

飲み物	フタの閉まる容器（水筒、ペットボトルなど）のみ持ち込み可、飲むのは、1、3、4階ラウンジ、入口玄関内で。
食べ物	4階ラウンジまたは入口玄関内で
タバコ	館内は全館禁煙です。喫煙は、入口玄関外で
持ち込みパソコン・携帯メール	1・2階のみ利用可
携帯通話	全館禁止
館内撮影	全館禁止
閲覧席での私語	館内は静粛に。ディスカッションできる演習室は4階にあります
盗 難	貴重品等、大事なものは必ずお手元に置くように気をつけてください

キャンペーン中は、館内にポスターを貼り、リーフレットを利用者一人一人に手渡すと共に、職員全員がキャンペーンバッチを付けて利用者の方々と対応しました。また利用者の方からのマナーに関するご意見もいただいております。今後も定期的にこのキャンペーンを実施し、総合図書館のよりよい環境を作って行きたいと考えております。

総合図書館マナーアップキャンペーン
2004. Sept-Oct

Good Manners
Or
No Manners?

図書館を快適に使いましょう

試験にレポート、論文作り、たまには小説を手にとったり...
図書館を訪れる人の目的や思いは様々です。「私」だけでなく、
「みんな」が気持ちよく使える図書館に、してみませんか?

附属図書館秋の特別展示会 土肥慶蔵の医学関係資料とその時代 - 鶯軒文庫^{がっけんぶんこ}を中心として

附属図書館展示委員会

今年の特別展示会では、総合図書館所蔵の「鶯軒文庫」の中から興味深い資料の数々を紹介いたします。

当館が所蔵する鶯軒文庫とは、明治・大正期に医学部教授であった土肥慶蔵が収集した古医学書のコレクションです。土肥慶蔵は皮膚泌尿器科学の分野で大きな功績を残した一方、漢詩文にも親しみ、「鶯軒」と号したことから、この名称が付けられました。

展示会では、『解体新書』刊行前にその予告編として発行されたと言われている『解体約図』を始めとして、貴重な資料も公開します。

また、医学部のご協力により土肥慶蔵ゆかりの品々も展示できる予定です。それらを背景にして、西洋医学の黎明期である明治・大正という時代を偲びます。

展示期間中には、加我君孝教授による記念講演会も企画しました。ご期待ください。

特別展示会

会 期：平成 16 年 11 月 10 日(水)~
11 月 24 日(水)

(土・日・祝日も開催)

9 時 ~ 19 時

(入館は 30 分前まで)

会 場：総合図書館 3 階ホール

特別講演会

講 師：加我君孝教授

(大学院医学系研究科)

日 時：平成 16 年 11 月 15 日(月)

15 時 ~ 16 時 30 分

演 題：土肥慶蔵のウィーン大学留学
- 花開く 19 世紀末のオーストリア・ドイツの医学 -

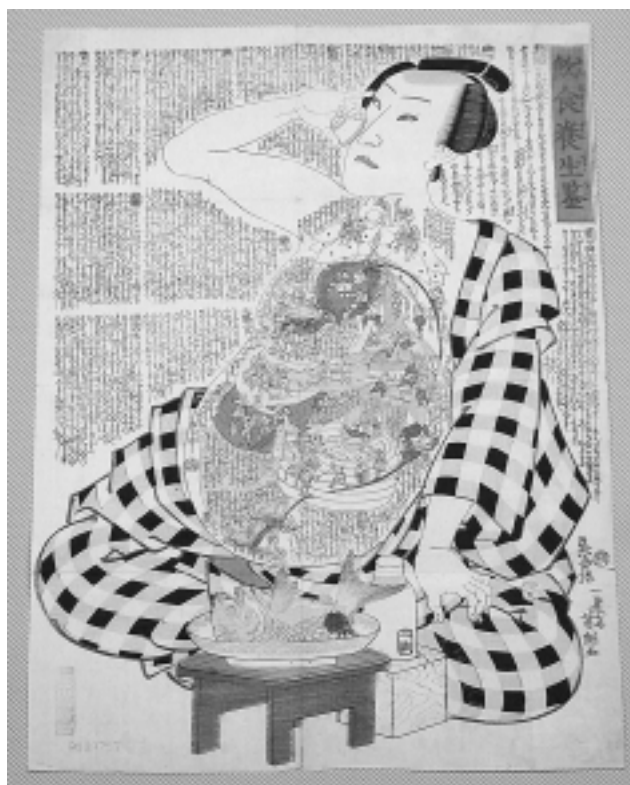
会 場：総合図書館大会議室

(本郷通り側西口玄関より入り、
3 階)

問い合わせ先

情報サービス課参考調査係

電話 03 - 5841 - 2647



鶯軒文庫より

飲食養生鑒

一登齋(歌川)芳綱画

(総合図書館請求記号 V11 : 893)

「第一高等学校創立一三〇周年記念・駒場の歴史展」について

教養学部・美術博物館・自然科学博物館の三者共催で、11月1日から12月17日までの予定で標記の特別展覧会を開催します。

この特別展は、教養学部の前身である第一高等学校の130年の歴史を、同校が駒場に移転するまで駒場キャンパスにあった東京農学校 東京帝国大学農学部の歴史と統合させながら、学校制度・運営、教育、学生生活の三つの角度から、明らかにしようとするものです。

内容としては、駒場の歴史と第一高等学校の沿革、第一高等学校の教育（教師・教科書・試験等）、第一高等学校の全寮生活と部活動の3部構成となっています。

展示物はその大半が未公開なもので、内村鑑三の不敬事件に関する資料、夏目金之助（漱石）の一高教師採用時の自筆の履歴書や彼の英語の試験問題、1935年本郷向ヶ丘から教師・生徒全員の徒歩による駒場への移動の記録映画、そして教師や学生が実際に使って旧教養学部図書館に保存されていた教科書・参考書・掛図など、教育史的にも社会史的にも貴重な資料です。

また、展示会場となる美術博物館・自然科学博物館は、旧第一高等学校の図書館を改装したものです。

なお、駒場図書館でも特別展の開催期間に併せて、旧第一高等学校関連の資料展示を企画しています。

この展覧会を機に、より多くの皆様に駒場キャンパスの歴史にふれていただければと思います。



写真（展示資料より）

- 左上 菅原道真像（小堀鞆音作）
- 左下 坂上田村麻呂像（小堀鞆音作）
- 右上 第一高等学校図書館内部
（現美術博物館展示室）

秋季データベース講習会のお知らせ 論文・レポートの執筆に役立ちます!!

情報基盤センター-学術情報リテラシー係

10、11月にわたり、本郷・駒場・柏の各キャンパスにて、秋季データベース講習会を開催します。

冬学期開始にあわせ、専門データベースから文献管理ソフトまで、論文執筆に役立つラインナップをご用意しました。各データベースの提供元から講師を招き、実習形式で実施いたします。

皆様ぜひふるってご参加ください!

対象データベース

ScienceDirect (SD): エルゼビア社が提供する科学・技術・医学・社会科学分野の電子ジャーナルシステム。
 Engineering Village2 (EV2): 理工学分野の2大データベース Compendex と INSPEC の書誌情報、および特許情報や国際工業規格/仕様など複数の情報源にアクセスできる統合検索ツール。
 Web of Science (WoS): ISI社が提供する引用文献データベース。通常のキーワード検索に加え、引用・被引用の関係をたどった検索が可能。
 SciFinder: 化学・医薬・生化学等の雑誌論文や特許論文、化学物質情報、化学反応情報などの情報群を利用できるオンライン検索サービス。研究者向けに工夫された包括的情報ツール。
 LexisNexis Academic (Lexis): 世界各国の新聞、雑誌などの一般ニュース、企業プロフィール・財務情報、判例などの法律情報、医薬ジャーナルを網羅した総合情報データベース。
 Journal Citation Reports (JCR): 学術雑誌評価ツール。論文間の引用データを基に算出された Impact Factor (文献引用影響率) などが調べられる。
 EndNote: 学術文献の情報検索と検索結果のダウンロードファイルを管理する文献管理ソフト。論文執筆の際の引用文献欄と参考文献リストの自動作成が可能。

<スケジュール>

月	火	水	木	金
10/11 休日	10/12	10/13 柏 SD 10:00-12:00 EV2 14:00-16:00	10/14	10/15
10/18	10/19	10/20	10/21	10/22
10/25	10/26	10/27	10/28	10/29 駒場 SD 13:20-15:20
11/1	11/2 本郷 SciFinder 15:30-17:00	11/3 休日	11/4 駒場 Lexis 16:20-17:50	11/5 本郷 EndNote 15:00-16:30
11/8	11/9 本郷 Lexis 13:00-14:30	11/10	11/11 柏 JCR 10:30-11:30 WoS 13:30-15:00 EndNote 15:30-17:00	11/12 駒場 WoS 14:40-16:10 JCR 16:20-17:20

<詳細情報および問い合わせ先>

各キャンパスでの会場、申込方法等については以下を参照してください。

本郷: データベース講習会のお知らせ <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/news/db2004au.html>

情報基盤センター-学術情報リテラシー係 literacy@lib.u-tokyo.ac.jp 内線 22649

駒場: 駒場図書館 HP <http://lib.c.u-tokyo.ac.jp/news.html> # koshu

駒場図書館 参考係 sanko@lib.c.u-tokyo.ac.jp 内線 46093

柏: 柏図書館 HP <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/>

柏図書館 情報サービス係 kashiwar@lib.u-tokyo.ac.jp 内線 64224

英語編も
好評開催中!!

11月～12月のデータベース定期講習会のお知らせ

情報基盤センター学術情報リテラシー係

会場：総合図書館 1階 メディアプラザ 講習会コーナー

定員：各回12名です。(予約は不要です。時間までに会場へ直接集合してください。)

入門編 <i>Introductory Course</i>	授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。OPACなど基本的なデータベースを使った実習を中心に、効率的な文献の探し方を紹介します。
FELIX編	雑誌記事索引、SwetScan、PCIの3つのデータベースが統合検索できる目次情報検索システムFELIXを用いて、文献を調査し入手するまでの方法を検索実習を行いながら紹介します。
Web of Science編	引用索引データベース Web of Science の検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
電子ジャーナル編 <i>Electronic Journals</i>	基本的な電子ジャーナルの利用方法や利用上の注意点から、代表的な出版社が提供する電子ジャーナルシステムを用いた効率的な文献検索方法まで、実践演習を行いながら紹介します。

スケジュール (2004年11月～12月)

ご都合の良い時間帯を選んでどうぞご参加ください。(11:00-12:00、15:00-16:00、16:30-17:30)

月	火	水	木	金
11/1 11:00-12:00 電子ジャーナル	11/2	11/3 休日	11/4	11/5
11/8 16:30-17:30 FELIX	11/9	11/10	11/11	11/12
11/15	11/16	11/17	11/18 11:00-12:00 入門	11/19
11/22	11/23 休日	11/24 11:00-12:00 Web of Science	11/25 休館日	11/26
11/29	11/30 15:00-16:00 入門	12/1	12/2	12/3
12/6	12/7 英語編 15:00-16:00 Introductory Course	12/8	12/9	12/10 16:30-17:30 電子ジャーナル
12/13	12/14 11:00-12:00 FELIX	12/15	12/16	12/17

ご要望に応じた内容で行う出張講習会、個人向け講習会も実施しております。詳しい情報は <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai> にてご覧いただけます。ぜひご利用ください。

お問い合わせ先：情報基盤センター学術情報リテラシー係
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp 内線 22649

『図書館の窓』へのご意見・ご感想をお寄せください。
kikaku@lib.u-tokyo.ac.jp

編集室 だよ

大学や企業のホームページを評価した調査結果が、コンサルティング会社などから先日相次いで発表されました。新聞でご覧になった方も多いでしょう。インターネットの世界での「顔」として、今やホームページは欠かせない存在です。この調査では、見る人にとっての使いやすさ、わかりやすさが評価のポイントでした。「図書館の窓」も、紙の世界での附属図書館の「顔」として、皆さんにとっての読みやすさ、親しみやすさを追求していきます。これからの「窓」に、どうぞご注目ください。(佐藤)

東京大学附属図書館報「図書館の窓」Vol. 43 No. 5(通巻419号) 2004年10月1日発行

発行人 笹川郁夫 編集委員 委員長・高橋 努 副委員長・佐藤千春

委員・石川真樹・羽野敦子・梅沢耕助・森松富美子・胡内奈都子・石川一樹

東京大学附属図書館発行 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 電話 03(5841)2612